

シャンプー界面活性剤成分表

※界面活性剤…洗剤の主成分で油汚れを落とし泡立たせる働きがある

活性剤の種類 1	活性剤の種類 2	全成分表示の表示名称	特徴	洗浄力	頭皮や髪への刺激性	泡立ち	生分解性	適している髪	カラーの持ち	
アニオン系活性剤	高級アルコール系	ラウリル硫酸Na ラウレス硫酸Na	洗浄力が高く、泡立ちも良好な活性剤 安価な活性剤	◎	△	◎	○	油分の多い髪 汚れの多い髪	×	
	αオレフィン酸	オレフィン(C14-16)スルホン酸Na	洗浄力が高く、泡立ちも良好な活性剤	◎	△	◎	○	油分の多い髪 汚れの多い髪	×	
	アミノ酸系	グルタミン酸系	ココイルグルタミン酸Na ココイルグルタミン酸TEA ラウロイルグルタミン酸Na	グルタミン酸というアミノ酸をもとにつくられている。皮膚、毛髪に対して優しい低刺激性の活性剤。洗浄力は強くなく、泡立ちもあまり良くない。コンディショニング性が高く、高価な活性剤。	△	◎	△	◎	損傷毛 デリケート毛 乾燥毛	○
		アラニン系 グリシン系	ラウロイルアラニンNa ココイルメチルアラニンNa ココイルアラニンTEA ラウロイルサルコシンNa ココイルサルコシンNa	アラニンあるいはグリシンというアミノ酸をもとにつくられている。皮膚、毛髪に対して優しい活性剤。 グルタミン酸系よりも泡立ちがよくなっている。	○	○	○	◎	損傷毛 デリケート毛	○
	タウリン系	ココイルメチルタウリンNa ラウロイルメチルタウリンNa	含流アミノ酸といわれるタウリンからつくられる活性剤で、AMTと呼ばれているもの。皮膚、毛髪に優しい低刺激性の活性剤	○	◎	○	◎	損傷毛 デリケート毛	○	
	タンパク質由来系	ココイル加水分解コラーゲンNa	コラーゲン等のタンパク質を加水分解して得られるポリペプチドをもとにつくられている。皮膚、毛髪に対してとても優しい低刺激性の活性剤。皮膚、毛髪のタンパク質に類似しており、親和性があるので、コンディショニング性が高く、毛髪補修効果がある。高価な活性剤。	△	◎	△	◎	損傷毛 デリケート毛 乾燥毛	○	
	スルホコハク酸系	スルホコハク酸ラウリル 2 Na	泡の持続性に優れている。 他の活性剤と組み合わせると気泡力が増す。高級アルコールを原料としているが、高級アルコール系よりも皮膚刺激性がやや弱くなっている。	○	△	○	○	普通毛	△	
	石けん系	アルカリ石けん系	オレイン酸Na	いわゆる石けん。生分解性が高く、気泡力があるが、pHが高いため、皮膚への刺激性がある。また水の中のカルシウムイオンなどと結合して、スカム（石のようなもの）をつくり、毛髪に吸着し毛髪が硬くなる。	◎	×	◎	◎	油分の多い髪 汚れの多い髪	×
		酸性石けん系	ラウレス - 3 酢酸Na	アルカリ石けんを改良したもの。生分解性が高く、適度な洗浄力がある。弱酸性なので、刺激が緩和されている。合成の油を原料としており、高級アルコール系に類似している。	○	△	○	◎	普通毛	○
	アミドエーテル硫酸系	PEG-ヤシ油脂肪酸アミドMEA硫酸Na	高級アルコール系とほぼ同等の泡立ちの良さがありながら、アシルメチルタウリン系（AMT）に構造が類似しており、皮膚刺激は高級アルコールよりも弱くなっている。酸性でも析出しにくいという特徴がある。	○	○	○	◎	普通毛	○	
両性活性剤	ベタイン系	ラウラミドプロピルベタイン ココアン酢酸Na ココミドプロピルベタイン	眼への刺激性が少なく皮膚にも優しいことから、一般的にベビーシャンプーなどに使用されている。きめ細やかでクリーミーな泡立ちになる。	○	◎	○	△	損傷毛 デリケート毛	◎	
	アミノ酸系	ラウラミノジプロピオン酸Na	両性とアミノ酸の両方の良い点を持ち、目・皮膚への刺激性が最も少ない低刺激性の活性剤。	○	◎	△	△	損傷毛 デリケート毛	◎	
その他	※活性剤ではないが、 汚れを落とす作用がある	炭酸水素Na（重曹）	石けんと同じように皮膚の汚れを乳化し、清浄効果を有するが、水溶液は弱アルカリ性のため髪にはあまり優しくない。水に溶けにくく、ザラザラとした研磨作用がある。血管を拡張させる作用があり、血行が良くなる。殺菌・消臭効果がある。食品添加物に分類されるため摂取しても問題なく、また界面活性剤ではないため生分解性は高く環境にやさしいとされる。	△	△	なし	◎	普通毛	×	